

Title	『三田社会学』創刊30年に寄せて
Sub Title	
Author	澤井, 敦(Sawai, Atsushi)
Publisher	三田社会学会
Publication year	2025
Jtitle	三田社会学 (Mita journal of sociology). No.30 (2025. 7) ,p.1- 1
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11358103-20250701-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

『三田社会学』創刊30年に寄せて

澤井 敦

三田社会学会の機関誌『三田社会学』が、本号をもって創刊30周年を迎えた。三田社会学会自体は1985年に設立されたが、『三田社会学』はそれからおよそ10年後、1996年に、当時の会長、山岸健先生が編集委員長も兼ね、編集委員の先生方のご尽力も合わせて創刊された。私事で恐縮であるが、かくいう私も、創刊号には論文を寄稿、4号（1999）・11号（2006）・18号（2013）では特集を担当、また、4号から18号まで編集委員を15年間、19号（2014）から21号（2016）まで編集委員長を3年間、務めさせていただいた。その意味ではけっこう長い（長すぎる？）期間、いろいろと本誌に関わらせていただいたことになる。

『三田社会学』のいまあるかたち（構成）も徐々に現在のようになったものである。当初、「特集」は学会大会のシンポジウムの担当者・関係者によるものではなく、誌上のみで2つの特集が毎号組まれていた。大会シンポジウムと連動する現在のかたちになったのは、5号（2000）からである。「書評リプライ」も創刊号から始まっているものの、掲載書数も増え、常態化したのは10号（2005）あたりからとの印象である。ちなみに、この書評リプライというかたちは、必ずしも一般的ではないように思うが、関係者相互のコミュニケーションを促進し、研究活動のネットワークを広げていくという意味でも有益なものであると思う。もちろん、本誌の構成自体、こうして作られてきたものであるのだから、それで固定するというだけでなく、デジタル化が進む時代にふさわしい新しい企画・内容をさらに考えていくことが望まれるだろう。

また、『三田社会学』出版を支える財政面での変遷にもふれておきたい。当初、出版資金は、会員の皆さまからの会費はもちろんであるが、それに加えて、歴代の編集委員会の努力により集められた出版社からの広告収入に依っていた。また、5号（2000）からは、川合隆男先生・山岸健先生・藤田弘夫先生（三先生ともすでに先に逝かれたが）から『奥井復太郎著作集』の監修料をご寄付いただき利用させていただいている。そして8号（2003）あたりから、三田哲学会からの、現在にまでいたる助成をいただいている。あらためて、記して感謝したい。

『三田社会学』は三田所属の教員や院生のみならず、三田出身の研究者や関係する皆さんによって開かれたコミュニケーションの場となってきた。原田勝弘先生（3号）、熊田俊郎先生（4号～10号）、鈴木智之先生（11号～15号）など、他大学所属の先生方に編集委員長をご担当いただいていた時期もあった。30周年の節目を経て、『三田社会学』が、出身、所属や世代を越えて、いま以上に広がりのある研究活動のプラットフォームとなることを、切に願いたい。会員の皆さまも、これからもさらに積極的に、このコミュニケーション空間へとご参加いただければ幸いである。

（さわい あつし 慶應義塾大学法学部）